

## 文章産出意識尺度の信頼性に関する検討

— 情報伝達文の場合 —

崎 浜 秀 行<sup>1)</sup>

日常生活の中で、私たちは様々な文章に出会う機会が多い。新聞や書店に並ぶ本など、その数は大変なものである。また、ジャンルも、物語からニュースに至るまで幅広い。しかし、これらに共通しているのは、必ず「書き手」と「読み手」が存在しており、両者は何らかのインタラクションを行っている、ということである。よって、書評などでは「あの本は〇〇だ」「あの本は面白い」などの評価が生まれるのである。

学校教育においても、文章に関する教育は「作文」という形で行われている。さらに、書かれた文章については何らかの形による評価が行われる。平(1994)では、中学生、高校生を対象として作文課題(物語創作)を課し、国語教師をはじめとする7名の採点者が産出文章の採点を行った。その結果、文章の評価観点としては、大きく分けて、「文章力」および「基礎言語力」の2因子が存在することを見出した。また、「文章力」因子の中には、「完成度」、「内容」、「ストーリー必然性」など、10の下位項目が、「基礎言語力」因子の中には、「基本的文法」などの4つの下位項目が存在することを示唆した。さらに、岸・綿井(1994)においては、説明文の分かりやすさに関する評価項目として、「初心者にとって語彙は適切か」、「各段落の意味内容はまとまっているか」など、主に4つの観点があることを見出した。

堀田(1995)は大学生を対象として、どのような文章を良い文章だと思うかについての調査を行った。そして、得られた回答を、低重要度項目および高重要度項目に分割した。その結果、高重要度項目としては「主旨がはっきりしている」、「誤字がない」などが挙げられ、低重要度項目としては「一文が短い」、「同じ文末を続けない」

などの項目が挙げられた。高重要度項目としては、文章全体に関する内容が多くなっている。したがって、読み手は書き手に対して何からの期待を持つことが考えられる。

一方で、文章の書き手自身に着目した研究も見られる。Bereiter & Scardamalia (1984)は、文章産出時に書き手が意識する側面として、内容的側面、および修辭的側面の2側面が存在することを示唆した。そして、熟達した書き手は両側面を行き来させながら文章を産出できるが、初心者の書き手は内容的側面→修辭的側面への移行しかできないことを示唆した。つまり、書きたい内容を考え、それをどのようにして書くか、という行為はできるが、書いた内容が書き手の意志を反映しているかどうかについては吟味できないのである。しかし、外的な手掛かりを与えた場合、内容的側面→修辭的側面への移行が可能になることを実験から明らかにした。堀田(1993)は、Bereiter & Scardamalia (1984)の2側面を基にして、情報伝達文、および情意文の2文を書いた際、それぞれでどの側面が重視されるかを検討した。その結果、情報伝達文の方が情意文よりも修辭的側面を重視することを明らかにした。このように、文章を書く際に、書き手側は何らかの意識を持っているのである。

しかし、堀田(1993)で用いられた尺度では、各側面5項目づつ、合計10項目しか用いられていない。書き手が意識することは他にも存在することが考えられる。そこで崎浜(1999)では、予備調査で得られた質問項目をもとに、情報伝達文<sup>2)</sup>を書く際に書き手が意識することについて調査を行った。その結果、「伝わりやすさ」、「読みやすさ」、「読み手の興味・関心」、「簡潔性」、以上の4因子を抽出した。しかし、この調査は書き手の意識の探索的検討を目的として行われており、信頼性に関しては検討されていなかった。そこで、本研究においては、崎浜(1999)で用いられた尺度の信頼性を検討する。なお、この尺度は情報伝達文を対象にしたものであることから、本研究で扱う「文章」については、すべて情報伝

- 1) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程(後期課程)(教育心理学専攻)
- 2) 情報伝達文とは、ある資料などを基にして、その内容を他者に伝える文章のことを指す。たとえば、日本に関する資料をもとにして、はじめて来日する人に日本を紹介する、といった文章があてはまる。

達文を表すものとする。

## 調査

**被験者** 国立N大学大学生31名（男子14名，女子17名，平均年齢18.4歳）

**材料** 質問紙

**手続き** 被験者には，質問紙を配布した。まず，1回目の調査（調査1）では，「この調査は，皆さんがふだん，文章を書くときに心がけていることを問うものです。結果は統計的に処理されますので，皆さんの結果が問題になることはありません。」という教示を与えた。54の質問項目に関し，5件法で回答を求めた。2週間後，2回目の調査（調査2）が行われた。手続き，質問項目等は1回目の調査と同じである。しかし，使用項目の提示順は入れ替えた。そして，両調査のデータをもとに，尺度全体，下位尺度，各項目ごとに相関係数を求めた。

Table 1 学生全体のデータ

項目	1回目調査 平均値	1回目調査 標準偏差	2回目調査 平均値	2回目調査 標準偏差	相関係数	有意性
<b>第1因子</b>						
19 ・正しく内容を読み手に伝える	4.10	0.87	3.32	0.94	0.43	*
36 ・構成を簡潔にする	3.52	0.93	3.48	1.03	0.52	**
34 ・分かりやすい内容にする	3.74	0.82	3.16	1.16	0.24	
31 ・論点を明確にして書く	3.61	1.05	4.03	1.05	0.44	*
7 ・伝えたいことを相手にすぐ分かってもらえるように書く	4.10	0.87	3.74	1.00	0.45	*
29 ・他の人がみてもわかりやすい文の構成にする	3.55	0.93	4.03	1.08	0.68	***
48 ・まとまりのある文章を書く	3.71	0.97	3.42	0.99	0.48	**
21 ・自分の主観が入らないようにする	3.26	1.37	3.19	1.01	0.52	**
43 ・各事項が分かりやすいように書く	3.81	1.14	3.52	0.89	0.53	**
1 ・内容がうまく伝わるように書く	4.06	0.85	3.84	0.90	0.49	**
27 ・1人よがりの文にならないようにする	3.42	0.92	2.77	0.84	0.69	***
30 ・文として成り立っている	3.84	0.97	2.94	1.00	0.65	***
42 ・必要最低限の事項は，もらさずに書く	4.29	0.82	3.32	0.98	0.36	*
54 ・文章全体の流れを自然にする	3.70	0.79	3.42	0.81	0.31	†
11 ・自分に興味のないことは書かない	2.84	1.07	2.94	0.96	0.60	***
<b>第2因子</b>						
5 ・読みやすいように，句読点をつける	3.48	0.77	3.61	0.84	0.52	**
8 ・句読点（「。」や「，」）をはっきり書く	3.65	0.88	4.13	0.76	0.50	**
52 ・文末の表現に気を付ける	3.80	1.19	3.26	0.96	0.50	**
38 ・主語と述語のつながりに注意する	3.61	1.09	2.90	1.01	0.60	***
3 ・誤字・脱字に気を付ける	4.29	0.82	3.68	0.83	0.42	*
15 ・漢字をまちがえない	4.32	0.83	2.97	0.95	0.69	***
51 ・「です・ます」や「だ・である」を統一する	4.13	1.22	3.52	0.93	0.66	***
50 ・段落分けをする	2.97	1.30	3.65	0.91	0.24	
53 ・順序だてて書く	3.40	1.04	3.16	0.90	0.53	**
6 ・話がいきなり飛ばない	3.29	0.97	3.39	0.95	0.74	***
37 ・同じ言葉を何回も使わない	3.58	1.18	4.19	0.98	0.57	***
32 ・文と文とのつながりに気を付ける	3.61	1.05	3.65	0.91	0.50	**
<b>第3因子</b>						
17 ・読む人が内容に興味をもってくれるように書く	3.13	0.99	2.74	0.89	0.48	**

## 結果

2回の調査を通じ，31名分のデータが得られた。このうち，学籍番号未記入のもの，および回答が不適切なものを除き，最終的に29名分を有効回答とした（男子13名，女子16名）。そして，以下の観点について，データ全体で，および男女別に分けて分析を行った。

### 1 尺度全体の信頼性について

崎浜（1999）では，大学生を対象とした調査を行った結果，文章産出の際の意識として4因子を抽出した。そこで本研究においても各項目を4因子に分割し，Table 1に示した（以下，Table 2およびTable 3においても同様）。なお，各下位尺度を構成する項目の平均値の合計を，各因子の下位尺度得点とした。

まず第1に，29名全員のデータを基に，調査1—調査

	原	著					
23	・読む人の興味がありそうな内容を選ぶ	2.77	0.84	4.16	1.00	0.44	*
10	・読む人が持っている知識や体験にひきつけて書く	2.55	1.09	2.74	0.93	0.01	
12	・最後まで読んでもらえるように書く	3.29	0.74	3.68	0.87	0.33	†
41	・自分が聞く(読む)側ならどこがどのくらい知りたいかを考える	3.03	1.11	3.35	0.88	0.41	*
14	・説得力のある構成にする	3.03	1.17	3.45	1.06	0.56	**
47	・自分ならこういうことから知りたいな、という順に書く	2.68	1.11	2.84	0.97	0.54	**
46	・内容をイメージしやすいように書く	3.35	1.08	3.39	1.05	0.78	***
24	・読む人が自然に読み進んでいけるような文章を書く	3.45	0.77	3.48	0.85	0.37	*
9	・詳しくに書く	3.23	1.06	3.55	0.89	0.47	**
<b>第4因子</b>							
45	・難しいことは書かない	3.16	1.10	2.87	0.96	0.61	***
28	・難しい漢字や熟語を使わない	3.42	1.12	3.81	0.95	0.70	***
18	・固くない言葉で書く	2.97	0.91	2.90	1.08	0.27	
26	・嫌にならずに読めるような「軽い」文章にする	2.97	1.08	3.19	0.79	0.06	
2	・漢字をたくさん使わない	2.68	0.75	2.73	0.78	0.56	**
44	・わかりやすそうな事項のみ選ぶ	2.71	1.07	3.26	0.86	0.56	**
33	・接続詞をたくさん使わない	3.03	0.95	3.45	0.89	0.15	
49	・知らせたいことだけを簡単に書く	3.20	1.03	3.16	0.90	0.18	
<b>2以上の因子に負荷量が高い項目</b>							
35	・文章は短くまとめる	3.48	1.21	3.13	0.81	0.31	†
39	・文を短くする	3.35	1.08	3.52	0.77	0.48	**
40	・長い文を書かない	3.48	1.09	3.61	0.80	0.25	
13	・あまり全体を長くしない	3.68	1.08	3.13	1.02	0.14	
<b>因子負荷量が低い項目</b>							
25	・読めそうな字で書く	4.06	0.93	2.97	1.02	0.66	***
22	・自分がよく分からない情報は書かない	3.68	1.25	3.16	0.82	0.62	***
16	・あまりおおざっぱになりすぎないように書く	3.13	1.02	3.61	0.88	0.63	***
4	・資料のられつにならないように書く	2.58	1.09	2.97	0.71	0.33	†
20	・できるだけ漢字を多くする	2.90	0.98	3.42	1.12	0.33	†

\* : p < .05    \*\* : p < .01    \*\*\* : p < .001

Table 2 男子学生データ

項目	1回目調査 平均値	1回目調査 標準偏差	2回目調査 平均値	2回目調査 標準偏差	相関係数 (調査間)	有意性
<b>第1因子</b>						
19	・正しく内容を読み手に伝える	3.29	0.91	4.00	0.88	0.79 ***
36	・構成を簡潔にする	3.21	1.19	3.43	1.02	0.46 †
34	・分かりやすい内容にする	2.93	1.27	3.71	0.83	0.09
31	・論点を明確にして書く	3.86	1.10	3.43	1.16	0.57 *
7	・伝えたいことを相手にすぐ分かってもらえるように書く	3.64	1.08	4.00	0.88	0.41
29	・他の人がみてもわかりやすい文の構成にする	3.86	1.29	3.43	1.09	0.87 ***
48	・まとまりのある文章を書く	3.43	1.02	3.71	1.07	0.33
21	・自分の主観が入らないようにする	3.14	0.86	3.29	1.44	0.39
43	・各事項が分かりやすいように書く	3.36	0.74	3.71	1.27	0.71 **
1	・内容がうまく伝わるように書く	3.86	1.03	3.79	0.89	0.47 †
27	・1人よがりの文にならないようにする	2.71	0.61	3.29	0.91	0.91 ***
30	・文として成り立っている	3.21	1.05	3.93	0.92	0.64 *
42	・必要最低限の事項は、もろさずに書く	3.21	0.70	4.21	0.97	0.46 †
54	・文章全体の流れを自然にする	3.29	0.83	3.50	0.94	0.20
11	・自分に興味のないことは書かない	2.71	1.07	2.86	1.17	0.62 *
<b>第2因子</b>						
5	・読みやすいように、句読点をつける	3.43	0.76	3.36	0.74	0.74 **
8	・句読点(「。」や「,」)をはっきり書く	4.00	0.78	3.50	1.09	0.53 †

文章産出意識尺度の信頼性に関する検討

52	・文末の表現に気を付ける	3.29	0.61	3.71	1.33	0.54	*
38	・主語と述語のつながりに注意する	2.79	1.05	3.86	1.03	0.65	*
3	・誤字・脱字に気を付ける	3.71	0.83	4.43	0.76	0.72	**
15	・漢字をまちがえない	2.64	0.93	4.29	0.83	0.67	**
51	・「です・ます」や「だ・である」を統一する	3.43	0.94	3.86	1.46	0.56	*
50	・段落分けをする	3.50	0.85	3.00	1.24	0.25	
53	・順序だてて書く	3.36	0.50	3.14	1.10	0.85	***
6	・話がいきなり飛ばない	3.07	1.00	2.93	0.92	0.68	**
37	・同じ言葉を何回も使わない	4.07	1.07	3.64	1.22	0.56	*
32	・文と文とのつながりに気を付ける	3.43	0.94	3.50	1.34	0.55	*
<b>第3因子</b>							
17	・読む人が内容に興味をもってくれるように書く	2.86	0.66	2.93	0.92	0.27	
23	・読む人の興味がありそうな内容を選ぶ	4.00	1.11	2.57	0.85	0.04	
10	・読む人が持っている知識や体験にひきつけて書く	2.57	1.02	2.36	1.08	0.29	
12	・最後まで読んでもらえるように書く	3.57	0.94	3.36	0.84	0.04	
41	・自分が聞く(読む)側ならどこがどのくらい知りたいかを考える	3.14	0.95	2.86	0.95	0.49	†
14	・説得力のある構成にする	3.21	1.12	2.93	1.14	0.25	
47	・自分ならこういうことから知りたいな、という順に書く	2.50	0.65	2.50	0.85	0.35	
46	・内容をイメージしやすいように書く	3.29	0.99	3.14	1.10	0.73	**
24	・読む人が自然に読み進んでいけるような文章を書く	3.29	0.91	3.21	0.70	0.38	
9	・詳しくに書く	3.50	0.94	3.29	1.07	0.66	*
<b>第4因子</b>							
45	・難しいことは書かない	2.71	0.73	3.00	1.36	0.53	†
28	・難しい漢字や熟語を使わない	3.71	0.99	3.21	1.25	0.67	**
18	・固くない言葉で書く	2.93	1.14	2.86	0.86	0.40	
26	・嫌にならずに読めるような「軽い」文章にする	3.14	0.66	3.14	1.03	0.54	*
2	・漢字をたくさん使わない	2.77	0.73	2.57	0.85	0.64	*
44	・わかりやすそうな事項のみ選ぶ	3.07	0.62	2.36	1.28	0.54	*
33	・接続詞をたくさん使わない	3.36	1.01	3.00	0.88	0.00	
49	・知らせたいことだけを簡単に書く	3.14	0.77	3.29	1.20	0.28	
<b>2以上の因子に負荷量が高い項目</b>							
35	・文章は短くまとめる	3.21	0.70	3.43	1.34	0.65	*
39	・文を短くする	3.57	0.85	3.43	1.22	-0.67	**
40	・長い文を書かない	3.50	0.85	3.86	1.03	-0.34	
13	・あまり全体を長くしない	3.14	1.03	3.79	1.12	0.36	
<b>因子負荷量が低い項目</b>							
25	・読めそうな字で書く	2.79	0.89	3.79	0.97	0.83	***
22	・自分がよく分からない情報は書かない	2.79	0.58	3.21	1.53	0.65	*
16	・あまりおおざっぱになりすぎないように書く	3.57	0.94	3.00	1.24	0.65	*
4	・資料のられつにならないように書く	2.79	0.58	2.14	0.86	0.12	
20	・できるだけ漢字を多くする	3.50	1.09	3.43	0.85	0.58	*

\* : p<.05 \*\* : p<.01 \*\*\* : p<.001

2間全体の尺度間相関を求めたところ、 $r = 0.81$ となり、1%水準で有意な相関が得られた。また、下位尺度ごとに両調査間の相関を求めたところ、第1因子では0.64、第2因子では0.62、第3因子では0.80、第4因子では0.50の値が得られ、いずれの因子においても1%水準で有意な相関となった。

第2に、性別による回答の傾向を調べるために、データを男女別に分割し、上記と同様の分析を行った。

最初に、男性のデータについての解釈を行う (Table

2参照)。14名から得られたデータのうち、13名のデータを基にして2回の調査全体での尺度間相関を求めたところ、 $r = 0.91$ となり、1%水準で有意な相関が得られた。また、下位尺度ごとに相関を求めたところ、第1因子では $r = 0.74$ 、以下、第2因子は0.79、第3因子では0.89、第4因子では0.47の値が得られた。なお、第1因子から第3因子では1%水準で有意な相関が得られたが、第4因子については有意な相関が得られなかった。

Table 3 女子学生データ

項目	1回目調査 平均値	1回目調査 標準偏差	2回目調査 平均値	2回目調査 標準偏差	相関係数 (調査間)	有意性
<b>第1因子</b>						
19 ・正しく内容を読み手に伝える	4.18	0.88	3.35	1.00	0.10	
36 ・構成を簡潔にする	3.59	0.87	3.71	0.85	0.47	†
34 ・分かりやすい内容にする	3.76	0.83	3.35	1.06	0.33	
31 ・論点を明確にして書く	3.76	0.97	4.18	1.01	0.25	
7 ・伝えたいことを相手にすぐ分かってもらえるように書く	4.18	0.88	3.82	0.95	0.49	*
29 ・他の人がみてもわかりやすい文の構成にする	3.65	0.79	4.18	0.88	0.45	†
48 ・まとまりのある文章を書く	3.71	0.92	3.41	1.00	0.61	**
21 ・自分の主観が入らないようにする	3.24	1.35	3.24	1.15	0.68	**
43 ・各事項が分かりやすいように書く	3.88	1.05	3.65	1.00	0.35	
1 ・内容がうまく伝わるように書く	4.29	0.77	3.82	0.81	0.59	*
27 ・1人よがりの文にならないようにする	3.53	0.94	2.82	1.01	0.48	†
30 ・文として成り立っている	3.76	1.03	2.71	0.92	0.69	**
42 ・必要最低限の事項は、もらさずに書く	4.35	0.70	3.41	1.18	0.19	
54 ・文章全体の流れを自然にする	3.88	0.62	3.53	0.80	0.41	
11 ・自分に興味のないことは書かない	2.82	1.01	3.12	0.86	0.56	*
<b>第2因子</b>						
5 ・読みやすいように、句読点をつける	3.59	0.80	3.76	0.90	0.36	
8 ・句読点(「。」や「,」)をはっきり書く	3.76	0.66	4.24	0.75	-0.23	
52 ・文末の表現に気を付ける	3.88	1.09	3.24	1.20	0.45	†
38 ・主語と述語のつながりに注意する	3.41	1.12	3.00	1.00	0.76	***
3 ・誤字・脱字に気を付ける	4.18	0.88	3.65	0.86	0.24	
15 ・漢字をまちがえない	4.35	0.86	3.24	0.90	0.73	***
51 ・「です・ます」や「だ・である」を統一する	4.38	0.96	3.59	0.94	0.80	***
50 ・段落分けをする	2.94	1.39	3.76	0.97	0.25	
53 ・順序だてて書く	3.63	0.96	3.00	1.12	0.12	
6 ・話がいきなり飛ばない	3.59	0.94	3.65	0.86	0.74	***
37 ・同じ言葉を何回も使わない	3.53	1.18	4.29	0.92	0.72	**
32 ・文と文とのつながりに気を付ける	3.71	0.77	3.82	0.88	0.49	*
<b>第3因子</b>						
17 ・読む人が内容に興味をもってくれるように書く	3.29	1.05	2.65	1.06	0.64	**
23 ・読む人の興味がありそうな内容を選ぶ	2.94	0.83	4.29	0.92	0.66	**
10 ・読む人が持っている知識や体験にひきつけて書く	2.71	1.10	2.88	0.86	-0.09	
12 ・最後まで読んでもらえるように書く	3.24	0.66	3.76	0.83	0.61	***
41 ・自分が聞く(読む)側ならどこがどのくらい知りたいかを考える	3.18	1.24	3.53	0.80	0.36	
14 ・説得力のある構成にする	3.12	1.22	3.65	1.00	0.74	***
47 ・自分ならこういうことから知りたいな、という順に書く	2.82	1.29	3.12	1.11	0.58	*
46 ・内容をイメージしやすいように書く	3.53	1.07	3.47	1.12	0.82	***
24 ・読む人が自然に読み進んでいけるような文章を書く	3.65	0.79	3.65	0.79	0.29	
9 ・詳しくに書く	3.18	1.07	3.59	0.87	0.31	
<b>第4因子</b>						
45 ・難しいことは書かない	3.29	0.85	3.00	1.12	0.72	**
28 ・難しい漢字や熟語を使わない	3.59	1.00	3.88	0.93	0.73	***
18 ・固くない言葉で書く	3.06	0.97	2.88	1.05	0.26	
26 ・嫌にならずに読めるような「軽い」文章にする	2.82	1.13	3.24	0.90	-0.18	
2 ・漢字をたくさん使わない	2.76	0.66	2.71	0.85	0.53	*
44 ・わかりやすそうな事項のみ選ぶ	3.00	0.79	3.41	1.00	0.55	*
33 ・接続詞をたくさん使わない	3.06	1.03	3.53	0.80	0.22	
49 ・知らせたいことだけを簡単に書く	3.13	0.89	3.18	1.01	0.12	

文章産出意識尺度の信頼性に関する検討

2以上の因子に負荷量が高い項目							
35	・文章は短くまとめる	3.53	1.12	3.06	0.90	0.39	
39	・文を短くする	3.29	0.99	3.47	0.72	0.68	**
40	・長い文を書かない	3.18	1.07	3.71	0.77	0.68	**
13	・あまり全体を長くしない	3.59	1.06	3.12	1.05	-0.03	
因子負荷量が低い項目							
25	・読めそうな字で書く	4.29	0.85	3.12	1.11	0.43	†
22	・自分がよく分からない情報は書かない	4.06	0.83	3.47	0.87	0.47	†
16	・あまりおおざっぱになりすぎないように書く	3.24	0.83	3.65	0.86	0.67	**
4	・資料のられつにならないように書く	2.94	1.14	3.12	0.78	0.44	†
20	・できるだけ漢字を多くする	2.47	0.87	3.35	1.17	-0.05	†

\* : p < .05    \*\* : p < .01    \*\*\* : p < .001

次に、女性のデータについての解釈を行う (Table 3 参照)。17名から得られたデータのうち、16名のデータを基に、2回の調査全体での尺度間相関を求めたところ、 $r = 0.70$  となり、1%水準で有意であった。また、下位尺度ごとの相関は、第1因子では  $r = 0.51$ 、第2因子では  $0.49$ 、第3因子では  $0.76$ 、第4因子では  $0.52$  となった。このうち、第3因子では1%水準で、第1、第4因子では5%水準で有意となり、第2因子については10%水準で有意な相関が得られる傾向が見られた。

については1%水準で、項目2、9、11、16、20、22、26、30、31、32、35、37、38、44、51、52については5%水準で有意な正の相関が得られ、さらに、項目1、8、36、41、42、45については、10%水準で有意な相関が得られる傾向にあった。しかし、残りの20項目については有意な相関は見られなかった。

2 各項目毎の信頼性について

結果1では、尺度全体を通じての信頼性を検討した。そこで、結果2では、各項目ごとの信頼性について検討を加える。

(1) 被験者全体として

有効回答を基に、各項目ごとに分割して、調査1-調査2間での相関係数を算出した。その結果、45の項目で有意差が見られた。Table 1に結果を示した。内訳は以下のとおりである。

まず、項目1、2、5、6、8、9、11、14、15、16、17、21、22、25、27、28、29、30、32、36、37、38、39、43、44、45、46、47、48、51、52、53の以上32項目においては、1%水準で有意な正の相関が得られた。次に、項目3、7、19、23、24、31、41、42、以上の8項目においては、5%水準有意な正の相関が得られた。さらに、項目4、12、20、35、54、以上の5項目においては、10%水準で有意な正の相関が得られる傾向にあった。しかし、残りの9項目においては、相関係数は有意にはならなかった。

(2) 男子学生の場合

被験者から得られた回答を基に、各項目ごとに、調査1-調査2間での相関係数を算出した (Table 2 参照)。その結果、34の項目が有意な相関を示した。このうち、項目3、5、6、15、19、25、27、28、29、39、43、46、53

(3) 女子学生の場合

女子学生についても、被験者から得られた内容を基に

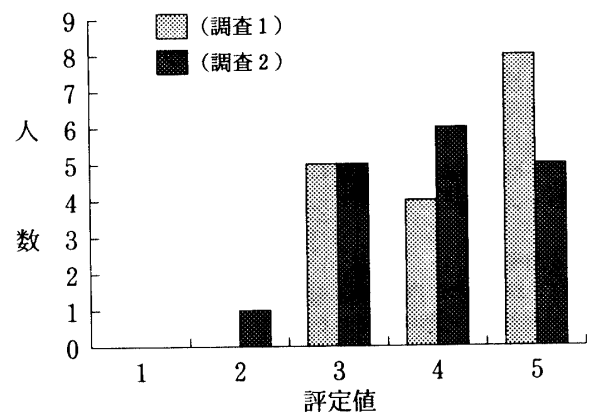


Fig. 1 項目19評定値分布 (女子学生)

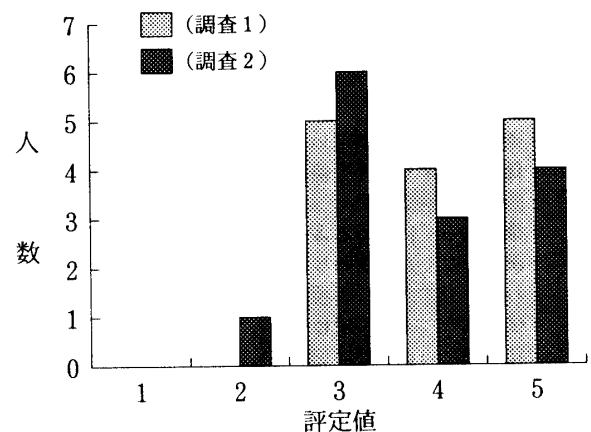


Fig. 2 項目19評定値分布 (男子学生)

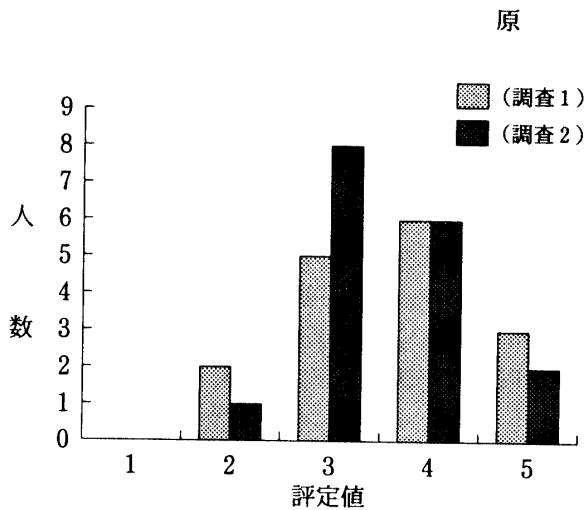


Fig. 3 項目53評定値分布 (女子学生)

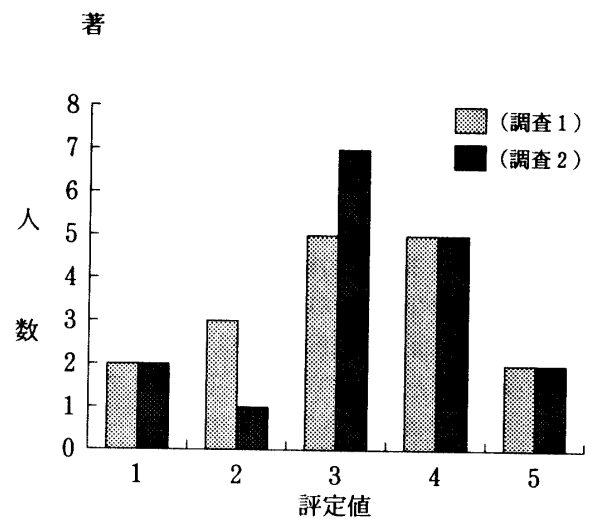


Fig. 5 項目14評定値分布 (女子学生)

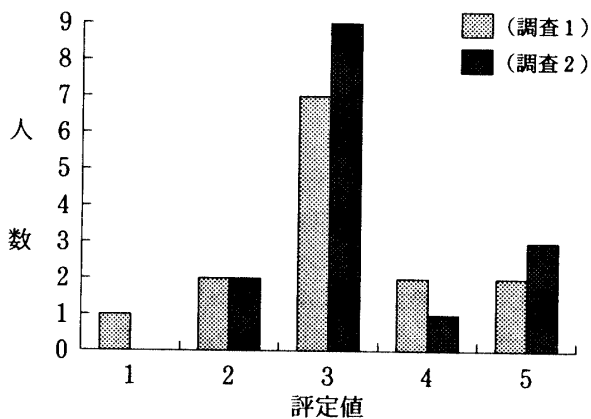


Fig. 4 項目53評定値分布 (男子学生)

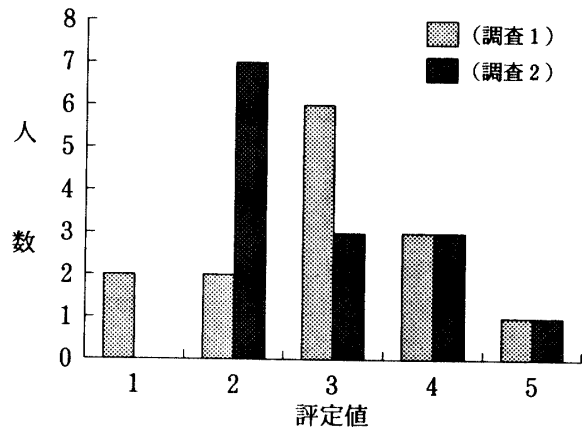


Fig. 6 項目14評定値分布 (男子学生)

して同様の分析を行った (Table 3 参照)。その結果、以下の32項目が有意な正の相関を示した。まず、1%水準で有意な正の相関が得られたのは以下の項目である。それぞれ、項目6, 12, 14, 15, 16, 17, 21, 23, 28, 30, 37, 38, 39, 40, 45, 46, 48, 51である。次に、項目1, 2, 7, 11, 32, 44, 47が5%水準で有意な正の相関を示した。さらに、項目4, 22, 25, 27, 29, 36, 52では10%水準で有意な正の相関が得られる傾向にあった。しかし、残りの22項目においては有意な正の相関が得られなかった。

#### (4) 男女間で大きな違いが見られた項目についての検討

(2)および(3)では、男女間で相関の傾向に違いが見られる項目についての分析を行った。このうち、項目14「説得力のある構成にする」、項目19「正しく内容を読み手に伝える」、項目53「順序だてて書く」の3項目については、各評定値を選んだ被験者の人数をグラフにまとめた (Fig. 1~Fig. 6 参照)。

まず項目14の場合、女性においては、2回の調査間で

選択する評定値が類似する傾向が見られたが、男性においては異なっていた。以下、項目19, 項目53においても同様の傾向が見られた。

#### 考察

本研究では、崎浜 (1999) で用いられた尺度の信頼性を検討することが目的であった。調査で得られたデータを分析した結果、尺度間の相関は有意であった。このことから、尺度全体を通じた信頼性は高くなることが考えられる。しかし、下位尺度、および、各項目を見ると、必ずしも有意な正の相関が得られなかったものが見られる。以下、下位尺度、各項目ごとに考察を行う。

まず、下位尺度に関して検討を加える。被験者全体を通じて得られたデータでは、すべての下位尺度において有意な正の相関が得られた。しかし、男子学生のデータのうち、「簡潔性」因子については有意な正の相関が得られなかった。すなわち、2回の調査において、各被験者の回答間にはあまり一貫性が見られない傾向にあった。このことから、男子学生は女子学生に比べ、情報伝

達文を書く際、あまり簡潔性を意識しない可能性が考えられる。なお、それ以外の下位尺度においては、男女とも有意な正の相関が見られた。したがって、情報伝達文を書く際の意識は一貫していることが考えられる。

次に、各項目に関する考察を行う。2回の調査の結果、有意な正の相関が得られない項目が見られた。

第1に、項目10, 13, 18, 26, 33, 34, 40, 49, 50についての考察を行う。これら9項目に関しては、男女別、および全体を通じても有意な相関が得られなかった。項目10は、「読む人が持っている知識や体験にひきつけて書く」、以下、13は「あまり全体を長くしない」、18は「固くない言葉で書く」である。このうち、項目10については、調査1の段階では評定3をつけた被験者が最も多く、次いで評定2, 1の順になっていた。しかし、調査2においては、評定3をつけた被験者が増加し、評定2をつけた被験者との人数の差が大きくなった。また、評定1をつけた被験者の数が減少していた。その理由としては、被験者の中で、この2週間の間にレポートなどを課された者が存在する可能性が考えられる。その中で、読み手を意識することの重要性を感じたのではないかと、という可能性が見られる。しかし、項目13のように、調査1では評定3, 4, 5をつける被験者が多かった項目において、調査2では評定3以外には人数が減少した、という項目も見られる。文章を書く前は、「あまり全体を長くしない」ことが大切であると考えられる被験者が多いのに比べ、実際に書いた体験を持つと、「なかなかうまくは行かない」と感じて評定を下すのではないかと考えられる。項目18, 26, 40, 49なども同様のことが考えられる。

第2に、男女間で結果が異なった項目についての考察を行う。女子学生において10%水準以上で有意となった項目のうち、項目4, 7, 12, 14, 17, 21, 23, 40, 46, 47, 48については、男子学生では相関が有意とはならなかった。項目12は、「最後まで読んでもらえるように書く」、14は「説得力のある構成にする」、46は「内容をイメージしやすいように書く」、17は「読む人が内容に興味をもってくれるに書く」である。これらの項目全体は文章全体の内容を意識した項目であると考えられるで、女子学生の場合、男子学生に比べて文章全体の内容に関わる意識が一貫していることが考えられる。各項目に関して、崎浜(1999)で抽出された4因子に分割すると、第3因子の「読み手の興味・関心」因子において、男子学生では有意な相関が得られない傾向にある。このことから、内容全体に関する意識については女子学生の方が一貫していることが示唆された。

一方で、男子学生においては相関が有意であったが、

女子学生においては有意にならなかった項目も見られる。項目3, 5, 8, 9, 19, 20, 26, 31, 35, 41, 42, 43, 53の以上13項目が当てはまる。このうち、項目19は「正しく内容を読み手に伝える」、53は「順序だてて書く」、項目3は「誤字・脱字に気をつける」、項目5は「読みやすいように、句読点をつける」、項目43は「各事項が分かりやすいように書く」である。これらの項目は、内容の正確さ、文章の正確さ、といった点に関連した項目であると考えられることから、男子学生の場合、正確さ、あるいは誤りをおかさない、といった点に関する意識が一貫していることが考えられる。

本研究においては、下位尺度ごと、あるいは各項目ごとなど、様々な角度から、崎浜(1999)で用いられた尺度の信頼性に関する検討を行ってきた。調査の結果、男女間では、文章産出意識について一貫していない事項が異なる可能性が示唆された。2回の調査間の相関係数が低い項目は、男子学生では20項目、女子学生では22項目見られた。これらの項目については、尺度の中で用いるのがふさわしいか否かを十分に検討した後、削除するなどの措置をとり、尺度自身を改良する余地がある。

その一方で、男子学生と女子学生との間で、日ごろから一貫している意識の種類に違いが見られたことは興味深い。一般的に、女性の産出文章の方が面白い中身になっている、と言われることがある。このことは文章の内容全体に関する事項で、女性において意識が一貫するという傾向を反映している可能性がある。ただし、本研究において明らかにしたかったことは、あくまでも尺度自身の信頼性に関することであった。したがって、「項目〇〇については、男性の方がよく意識する傾向にある」などの結果を出すことが本来の目的ではない。信頼性の低い項目を再検討し、尺度を作成し直した後に、「男女間では意識することがらに違いが見られる」などの結果を導くような研究が必要である。こうした分析ができるようになれば、①文章産出に必要なことがらはどんなことであり、②そうした事項をどのように習得できるのか、などを検討するきっかけになるものと考えられる。

本研究では、大学生31名分のデータをもとにして尺度の信頼性を検討してきた。しかし、得られたデータ数が極めて少ないこともあり、本研究の結果を一般化するには、被験者の人数、年齢幅を増やす、あるいは、尺度自身の改良が必要となる。これらは今後の研究課題とした。



引 用 文 献

- 堀田朱美 1993 文章の目的が書き手の意識に及ぼす影響 日本教育心理学会第35回総会発表論文集, 361.  
 堀田朱美 1995 大学生の文章観について 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 169.  
 岸学・綿井雅康 1994 説明的文章の産出におけるわかりやすさの改善について 東京学芸大学紀要(1部門), 45, 167-178.  
 崎浜秀行 1999 文章を書く時, 書き手はどんなことを

意識するか? - 情報伝達文の場合 - 日本教育心理学会第41回総会論文集補足資料.

Scardamalia, M., Bereiter, C., & Steinbach, R. 1984 Teachability of Reflective Processes in Written Composition. *Cognitive Science*, 8, 173-190.

平直樹 1994 言語能力に優れた児童生徒の発見と指導のための評価法の研究 平成5年度文部省科学研究費補助金〔奨励研究(A)〕研究成果報告書.

(1999年9月16日 受稿)

ABSTRACT

An Examination of the Reliability of the Scale on Writer's Awareness in Expository Writing.

Hideyuki SAKIHAMA

This study examined the reliability of the scale on expository writing. 31 university students (14 males & 17 females) participated in this study and were asked to fill in the multiple-choice questionnaire. The questionnaire contained 54 items. Two weeks later again they filled in the questionnaire as study 1. The content of the questionnaire between two studies was same, but had difference in order. Then correlation coefficient were calculated with respect to the scale itself, 4 factors(Sakihama,1999) and each item. The results showed that the questionnaire had a reliability in all, but there were some items not significantly correlated. More and more research is needed to improve the scale itself. (112 words)

Key words : reliability, expository writing, correlation coefficient.